

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><教育課程> (1) 幅広いニーズに対応する学習支援体制を作る。</p> <p>(2) 新学習指導要領に対応した教育課程および教務規定等の検討、整備を行なう。</p>	<p>(1) ①生徒のニーズに対応した教育内容、効果的な少人数授業を展開する。</p> <p>②早朝や放課後の補習など日常的な学習の機会を増やす。</p> <p>③長期休業中に学習支援を目的とした補習を設定する。</p> <p>④より多くの生徒の知的好奇心を高めるため、長期休業中に体験的なものを含めた講習を設定する。</p> <p>(2) ①新しい教育課程の効果的なあり方を検討するため、生徒対象の教育課程アンケートを実施する。</p> <p>②新しい教育課程に対応した教務規定を作成する。</p>	<p>(1) ①効果的な少人数授業の展開数が増えたか。</p> <p>②早朝や放課後の補習などの学習の機会を増やすことができたか。</p> <p>③④補習、講習の内容や設定時期の工夫により、講座数や参加者を増やすことができたか。</p> <p>(2) ①アンケート結果を受けて、新しい教育課程の効果的なあり方が検討できたか。</p> <p>②新しい教育課程に対応した教務規定が作成できたか。</p>	<p>(1) ①20人以下の講座数は、H25年度2年5講座3年14講座、H26年度2年2講座3年24講座、3年の講座数が増加した。</p> <p>②H25年度は、英語の朝補習、定期考査前の国語の放課後の補習だけであったが、H26年度は定期考査前に国語・社会・理科などで放課後の補習が行われている。</p> <p>③④H25年度の23講座で参加120人から、H26年度は27講座に154人が参加した。英語では、中学からの復習を行う講座などが開講され、基礎学力の底上げを図った。</p> <p>(2) ①3年生は教育課程改定の過渡期のため、参考に科目選択説明会で新2年生の保護者にアンケートを行った結果、自由選択の枠や習熟度別少人数授業などを増やしたことは、生徒のニーズに合致していた。</p> <p>②国が定める基準に合わせて、進級・卒業の条件について、教務内規を改定した。</p>	<p>(1) ①講座数の増加を踏まえ、自由選択科目の開講条件の再検討など教育課程全体を俯瞰しながら講座の設定を検討する。</p> <p>②会議など業務の見直しを進め、補習などを実施しやすい環境を整備する。</p> <p>③④英語以外にも中学校段階から復習する講座を設定する。体験的な講習や企画の拡充をすすめる。</p> <p>(2) ①改定した教育課程について、運営上の課題を検証する。</p>	<p>(保護者) 保護者アンケートにおいて、「学ぶ楽しさが実感できる授業が行われている」「生徒の学習意欲を引き出し学力を伸ばしている」「さまざまな場面で学習の機会を充実させている」の項目においては、あまり高い評価が得られていない。</p> <p>(学校評議員) ・生徒が「学校が良くなっている」と捉えているのはとても大切なことである。来校して学校がよい方向に大きく動いていると感じる。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価) ・生徒のニーズに対応して、少人数授業の展開数や、放課後の補習の教科数が増加している。長期休業中の補習・講習についても講座数・参加人数ともに増加している。 ・新学習指導要領に対応したカリキュラム編成については、生徒のニーズに合致していることがアンケートから読み取れる。</p> <p>(改善方策等) ・保護者アンケートから高い評価が得られなかった「学ぶ楽しさの実感」「学習意欲の伸長」「学習機会の充実」について、授業改善を含めた学習支援体制の構築が急がれる。 ・長期休業中の体験的講習については減少した。生徒の知的好奇心喚起のために、より多くの講座の開講を検討する。 ・次年度は新教育課程がすべての学年で実施されるため、より効果的なあり方についての検討を行う。</p>

<p><生徒指導・支援> (1) 全職員の共通理解のもとに、生徒一人ひとりを大切にしたい支援を行う。</p> <p>(2) 生徒の自立心・自尊心の育成と、規範意識の醸成を図る。</p>	<p>(1) ①生徒理解のための研修会を実施する。 ②「いじめ防止等のための基本方針」の周知および実践を行う。 ③生徒、職員によるあいさつ運動を行う。 ④支援が必要な生徒に対し、サポート会議が中心となり、組織的な支援を行う。 ⑤卒業式に在校生が参加するなど、学校やお互いを大切にすることを育てるための機会を増やす。</p> <p>(2) ①学校行事や部活動において、生徒主体の企画運営を行う。 ②ルール・マナー、いじめ防止の標語作りや道徳意識調査アンケートを行う。 ③授業のルール、頭髪指導、服装指導等を通して規範意識の醸成を図る。 ④逗子海岸清掃など、地域と連携したボランティア活動への参加を積極的に呼びかける。 ⑤式や行事などで校歌を歌う機会を増やす。</p>	<p>(1) ①効果的な研修会が実施できたか。 ②いじめ等のない学校になったか。 ③あいさつ運動が実施できたか。 ④組織的な支援が行えたか。 ⑤卒業式の形態を変えられたか。</p> <p>(2) ①生徒主体の企画運営ができたか。部活動の入学率、継続率が向上したか。 ②③規範意識は醸成できたか。 ④ボランティアの参加が増えたか。 ⑤学校や校歌に対する愛着が深められたか。</p>	<p>(1) ①7月に外部講師を招いて、人権研修会「生徒理解のために」を実施し、参加者から好評を得た。 ②嫌なことをされたと感じたことのある生徒は10名から3名に減少した。 ③PTAや生徒会も参加したあいさつ運動週間を設定した。 ④サポート会議や職員会議を通じて情報を共有し、必要な対応をした。 ⑤2年生全員が参加して卒業生を送り出した。</p> <p>(2) ①多くの行事で、生徒が積極的に企画に携わり、主体的に運営できた。部活動の入学率・継続率は微増で維持できた。 ②多くの生徒が積極的にルール・マナー、いじめ防止の標語作りに参加した。 ③ほとんどの生徒がルール・マナーを守っていると考えている。 ④逗子海岸清掃のボランティアは36名から57名に増加し、地域支援ボランティアも増加した。 ⑤始業式や終業式など、校歌を歌う機会を増やした。</p>	<p>(1) ①学校目標に応じたテーマの設定を系統立てて考える必要がある。 ②早期の徴候を察知する体制づくりとLINE等の見えない所でのいじめへの対応が課題である。 ③参加部活動や生徒の増加に努め、コミュニケーションの広がりをめざす。 ④学習支援も含め、必要な生徒について日常的な情報交換を行っていく。 ⑤1年生の参加も視野に卒業生の体験と想いを受け継ぐ機会を増やす。</p> <p>(2) ①次学年に引き継げるノウハウを伝え、さらに生徒の力を引き出していきたい。 ②授業ルールの確立など日常的な指導の継続が必要である。 ③道徳意識が希薄な生徒への指導方法を工夫する必要がある。 ④生徒が参加するボランティアの幅と種類を増やしていく。 ⑤歌詞を見なくても歌えるようにさらに校歌に接する機会を増やす。</p>	<p>(保護者) 保護者アンケートにおいて、「教職員が一人ひとりの生徒を大切に、自己肯定感を育てている」「学校生活全般を通して、コミュニケーション能力や人間関係能力を育てている」「他者を尊重する態度やルール・マナーを守る規範意識を育てている」の項目においては、肯定的な評価が見られるものの、満足行く結果ではない。</p> <p>(学校評議員) ・学校前を通る生徒の様子を見ると、時代の変化もあるかもしれないが、大変落ち着いてきている。 ・今年インターハイや関東大会での活躍があった。これまでの生徒のがんばりと教員の指導の表れであろう。キャプテン会議などにおいて生徒が学校を良くしようという意識が表れていると思う。 ・卒業式において、2年生が参加したこと、在校生の意識・卒業生の想いが良く表れていたのではないかと感動した。また、校長だよりによって、先生の思いが生徒たちに伝わっているのではないかと先生たちからの声かけによって子どもたちが心を開いていることが分かる。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価) ・アンケートの調査では、嫌なことをされたと感じる生徒は減少している。 ・外部講師を招いての人権研修の実施、サポート会議の充実などから、生徒を大切にしたい支援体制の構築は確実に進んでいる。 ・あいさつ運動にPTAだけでなく、生徒会を中心とした生徒も取り組むことで、コミュニケーションの基本であるあいさつが定着してきた。 ・頭髪指導・服装指導が浸透し、ほとんどの生徒がルール・マナーの遵守するようになった。また外部からの評価でも分かるように、以前に比べ生徒の規範意識が向上したのは、生徒指導の大きな成果である。 ・卒業式については、今年度より2年生全員が参加する形態となり、卒業生のそれまでのあゆみを在校生に継承させることができるようになった。 ・積極的・主体的に学校行事へ関わる生徒が増加した。逗子海岸清掃の参加人数の大幅な増加からわかるようにボランティアへの意識も大きく向上した。 ・校歌斉唱については、今年度より始業式・終業式等でも歌う機会を作り、愛校心の向上に大きく寄与している。</p> <p>(改善方策等) ・生徒を大切にしたい支援体制づくりについては前進しているものの、保護者のアンケートから見られるように十分の結果とはいえない。LINEなどSNSの利用についての取組が急がれる。 ・授業ルール・授業環境は整備されているとはいえ、この方面への体制づくりが必要である。 ・ボランティア活動については、逗子海岸清掃だけでなく、今後、多方面へのアプローチを進める。</p>
--	--	---	--	---	--	--

<p><学習指導・授業改善></p> <p>(1) 生徒の学習への関心・意欲を高め、確かな学力の向上と定着を図る。</p> <p>(2) 外部との連携を図りながら、授業改善を行う。</p>	<p>(1) 授業評価、保護者からの要望を学習指導に取り入れる。</p> <p>①生徒主体の活動的、体験的な学びの要素を授業の中に取り入れる。</p> <p>②生徒のコミュニケーション能力等の育成のため、グループワーク、ペアワークを取り入れる。</p> <p>③教科ごとに、観点別評価、評価基準の統一、共通テストのさらなる推進について研究を行う。</p> <p>④実力診断テストの実施およびその結果の有効活用についての検討を行う。</p> <p>(2) ①公開授業などを通して、近隣中学校等との授業交流の機会を増やす。</p> <p>②教員相互の授業参観や、教科ごとの授業改善研修会を行う。</p> <p>③授業評価の結果を分析し、教科ごとに課題と改善方向を明確にする。</p>	<p>(1) 授業評価、保護者アンケートの学習指導に関する評価が上昇したか。</p> <p>①②活動的、体験的な要素や、グループワーク、ペアワークが取り入れられたか。</p> <p>③評価基準の統一や共通テストの実施が行えたか。</p> <p>④実力診断テストの有効活用ができたか。</p> <p>(2) ①授業交流の機会を増やすことができたか。</p> <p>②授業観察の回数は増えたか。</p> <p>③授業評価結果は改善したか。</p>	<p>(1) 授業評価の学習指導に関する評価は1回目より2回目が向上しており、改善の成果が見られる。</p> <p>①②家庭科など4教科でグループワークなどをすべての科目で取り入れており、国語科など5教科では一部の科目で取り入れられている。</p> <p>③評価基準について、芸術科など4教科ですべての科目で統一しており、数学科など3教科で一部の科目では統一していない。共通テストについて、国語科など4教科ですべての科目で実施しており、数学科は一部の科目で実施している。3教科では実施していない。</p> <p>④結果分析の職員研修会を行い、保護者面談で活用した。</p> <p>(2) ①近隣中学校が実施する公開授業へ2回参加。新たな試みとして本校にて「実験的授業」を2回実施し、ともに10名以上の参加者を得た。</p> <p>②1・2学期ともに管理職による授業観察と平行した形で実施した。</p> <p>③大半の教科・科目で授業改善の取り組みが見られた。</p>	<p>(1) 一部の教科を除き評価4(とてもあてはまる)の割合が評価3(ややあてはまる)に比べかなり低いので、よりいっそうの授業改善を進める必要がある。</p> <p>①②何らかの形ですべての教科で取り入れており、さらに教科内でグループワークなどの研究授業を実施し、教員の理解を深める必要がある。</p> <p>③評価及び共通テストについて教科内で研究を行い、課題を明確化して、改善を進める。</p> <p>④テスト結果により、自分の理解度を知り、学習計画が立てられるよう、さらに指導する。</p> <p>(2) ①他校の公開授業の有用性を周知し、引き続き参加者の増加に努め、授業改善につなげる。</p> <p>②参加者を確実に増やしていくために、その方法の一つとして実験的な研究授業を実施し、多くの参加者を得た。来年度もこの方向を継続したい。</p> <p>③授業評価では各項目で「ややあてはまる」の回答が多いため、さらなる改善計画を策定実行していく必要がある。</p>	<p>(保護者) 保護者アンケートにおいて、「学ぶ楽しさが実感できる授業が行われている」「生徒の学習意欲を引き出し学力を伸ばしている」「さまざまな場面の学習の機会を充実させている」の項目においては、あまり高い評価が得られていない。</p> <p>(学校評議員) ・「授業評価」は生徒と教員の関係が表れやすいが、「生徒主体の授業の工夫」が低い。アクティブラーニングを意識した授業改善や授業研究が高校の課題でもある。沼間中との交流は大いに歓迎である。ぜひ来ていただいて中学の授業について厳しいコメントをしてほしいと思う。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価) ・授業評価の学習指導に関する評価は第1回・第2回ともにおおむね良好である。1回より2回目が向上しているため、授業改善に一定の効果が上がったと考えられる。また、各教科とも評価結果の分析に真摯に取り組み、授業改善への取組が行われた。</p> <p>・活動的・体験的授業、コミュニケーション能力の育成については、各教科とも何らかの形でのグループワークなどを取り入れており成果が上がっている。</p> <p>・外部テストの導入については、職員研修会を実施し、その後の保護者面談でテスト結果について有効活用が行われた。</p> <p>・授業改善については、授業参観および研究授業の実施により各教科で方針が話し合われた。また授業改善のための外部機関との連携についても近隣中学校の公開授業への参加に加え、ICTを使った実験的授業の公開を行った。</p> <p>(改善方策等) ・保護者からの「学ぶ楽しさの実感」「学力意欲の引き出しと学力伸長」「さまざまな学習機会の充実」の要望に応えられていない。多面的な学習の場の保障、グループワークなどのさらなる実践を行う必要がある。</p> <p>・授業評価の中でも「生徒主体の授業の工夫が低い値にとどまっている。従来の授業のやり方を根本から考え直し、授業改善や授業研究を推進する。</p> <p>・体験的授業を行うためにきわめて効果的なのがICTを活用した授業である。さらに研究授業や公開授業の機会を増やし、多くの職員が取り組めるようにする。</p>
--	---	---	---	--	---	--

<p><キャリア教育></p> <p>(1) 主体的に社会と関わる生きる力を育成する。</p> <p>(2) 主体的な進路選択ができる支援を行う。</p> <p>(3) 進路希望実現に向けた、きめ細かな支援を行う。</p>	<p>(1) ①外部講師を招いて、メンタルトレーニングなどの講習や講演を行う。</p> <p>②模擬投票、模擬裁判や、シチズンシップアンケートを行う。</p> <p>③社会人としてのマナー教育に関するプログラムを行う。</p> <p>(2) ①職業適性発見ワークシートなどを活用する。</p> <p>②実力診断テストの結果の有効活用と、次年度以降の実施方法についての検討を行う。</p> <p>③グループ内での情報交換を活発に行い、3年間を見通したキャリアプログラムが効果的に行えるように再構築する。</p> <p>(3) 進路希望の実現に向けた各種プログラムを実施する。</p> <p>① 大学体験プログラムやインターンシップを行う。</p> <p>②進路希望に応じた分野別の説明会を行う。</p> <p>③書く力を伸ばすために、小論文テストを実施する。</p>	<p>(1) ①②③主体的に社会と関わる生きる力を育成できたか。</p> <p>(2) ①生徒の進路意識が高まったか。</p> <p>②実力診断テストの有効活用と次年度以降の計画ができたか。</p> <p>③これまでの資料のまとめができたか。</p> <p>(3) 入学時の進路希望が実現できたか。</p> <p>①インターンシップを広め、充実できたか。</p> <p>②分野別説明会を実施できたか。</p> <p>③事前、事後指導が効果的に行えたか。</p>	<p>(1) ①11月に1学年対象にアサーティブに関する講演会を開き、相手や社会と良い関係を構築していくコミュニケーションについて学んだ。</p> <p>②模擬投票は12月に1学年全員対象に実施した。シチズンシップアンケートについては3月に実施した。</p> <p>③消費者教育や税金講話・年金教室・マナー教室などを実施した。</p> <p>(2) ①総合的な学習の時間に、講演会と合わせて、さまざまなワークシートに取り組みせ、進路意識を高めることができた。</p> <p>②来年度1・2年とも年2回実施の計画を立てることができた。</p> <p>③本年度の総合的な学習の時間に使った各学年の資料を回収し、ファイルにまとめることができた。</p> <p>(3) 入学時、大学・短大希望者54%に対し、2月末現在で36%が進学した。</p> <p>①昨年と比べ、大幅に参加人数を増やすことができた。</p> <p>②例年同様効果的な説明会を実施した。</p> <p>③2年次3学期に、書き方講座・小論文テスト(添削)を実施した。</p>	<p>(1) ①広い視野で、主体的に社会と関わる生きる力を育成するための企画を考える必要がある。</p> <p>②教科担当者と連携し、組織的な取り組みを進めるに努める必要がある。</p> <p>③年間計画を立て、同様の内容が続かないよう工夫する。</p> <p>(2) ①より早い時期から進路意識が高まり、より早く進路実現に向けての準備が始められるよう指導を工夫する。</p> <p>②生徒の学習状況を見ながら、有効活用をめざして、指導計画に位置づける。</p> <p>③過去の資料と合わせて整理し直し、3年間を見通したキャリア教育のさらなる充実を図る。</p> <p>(3) 進路希望が実現できるよう、学年・教科と協力しながら、意欲の高揚と学力の向上をめざした指導を重ねる。</p> <p>①1・2年の参加者を増やし、進路選択に有効に活用できるように情報提供を進める。</p> <p>②実施時期等を考慮し、さらなる効果の向上をめざす。</p> <p>③3年次の総合学習の時間を利用して、さらに志望理由や小論文などで実践につながる指導を継続する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>保護者アンケートにおいて「学校生活全般を通して、コミュニケーション能力や人間関係能力を育てている」「面談や懇談会等が効果的、計画的に行われている」の項目においては肯定的な評価を得ているが、「生徒の希望進路の実現に向け、キャリア教育や進路指導が適切に行われている」の項目においては、必ずしも高い評価を受けているとは言えない。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な時間の活用により、各学年についてさまざまな講演会、マナー教室、シチズンシップ教育など多面的なキャリア教育の実践が行われた。 ・各種ワークシートの使用、実力診断テストの実施などにより、生徒に自分の進路を意識させ、かつ学習状況を把握することができた。 ・大学体験プログラム、インターンシップ、分野別説明会、小論文実践講座など種々のプランを取り入れることで多様な進路へのニーズに応えることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々のプログラムや研修・講演会などは効果が現れてきているため、これらのプログラム等を包括する全体像を作る必要がある。また各教科でも、キャリア教育を意識した取組を検討する必要がある。高校生活全般を見据えた上でのキャリア教育実践プログラムを全面的に改定する必要がある。 ・入学時の大学・短大進学希望者と比べて、卒業時の進学者は減っている。進学を希望する生徒には推薦入試、AO入試とともに、一般受験を見据えた生徒の進路意識の変革とそれに合わせた各教科での受験指導を充実させる必要がある。
---	--	--	---	---	---	---

<p><地域等連携> (1) 保護者や地域との交流を深める。</p> <p>(2) 教育活動やその成果についての情報発信を行う。</p>	<p>(1) ①地域の行事などに、部活動や生徒会の生徒が参加する機会を増やす。 ②近隣の保育園と連携した授業や、本校行事への園児の参加を行う。 ③保護者と学校が連携して、あいさつ運動を行う。 ④地域貢献の方法についての研究を進める。 ⑤保護者を対象とした研修講座を実施する。</p> <p>(2) ①学校説明会などで、生徒が活躍している姿を伝える。 ②常に最新の情報が発信できるように、HPの更新を行う。</p>	<p>(1) ①生徒の参加の機会が増えたか。 ②保育園との連携が深まったか。 ③あいさつ運動が効果的にできたか。 ④貢献する内容などについて検討が進んだか。 ⑤効果的な研修講座が行えたか。</p> <p>(2) ①生徒が活躍する場面を増やせたか。 ②HPの迅速な更新ができたか。</p>	<p>(1) ①従来の吹奏楽部などに加え、部活動が地域の行事に積極的に関わることが増えた。 ②「発達と保育」での保育園実習や本校体育祭への保育園児の参加(玉入れ競技)などに加え、3名の生徒が5日間、保育園でボランティア活動を行った。 ③保護者と連携したあいさつ運動に加えて交通安全活動も行った。 ④清掃活動を中心とする地域貢献を行っている。 ⑤神奈川大学から講師を招きポジティブな子どもに成長させるためのコミュニケーションをテーマにPTA研修講座を開催した。</p> <p>(2) ①学校説明会で生徒会役員が部活動や、授業風景を紹介するなど、生徒が活躍する場面を増やせた。 ②リアルタイムのデータ収集を行い、月2回以上の更新をめざした。古いデータの精査も並行して実施した。</p>	<p>(1) ①生徒の貴重な発表の場でもあり、参加する部活動や生徒を増やしていく。 ②保育園とボランティアや体育祭以外での連携のあり方を検討するほか、他の外部機関との連携も模索する。 ③PTAだけでなく、より多くの職員も参加したあいさつ運動を展開していきたい。 ④高齢化が進む地域の状況を視野に検討を進めたい。 ⑤キャリア教育やコミュニケーションなど今後も保護者の関心の高い講演会を企画する。</p> <p>(2) ①生徒会などで作成した部活紹介ビデオなども学校説明会などで活用していく。 ②HPの円滑な更新のため、手続きの周知に努める。年間広報計画を策定して迅速な対応を心がける。また、ホームページビルダーの更新により、さらに使いやすいHPの構築をめざす</p>	<p>(保護者) 保護者アンケートにおいて、「ホームページやお知らせメール等の情報発信が適切に行われている」の項目においては、一定以上の評価を受けた。</p> <p>(学校評議員) スマイル(逗子市体験学習施設)では子どもたち主体の運営を行っている。バレー部などが子どもの指導を行ってくれて、小学生たちは嬉しそうであった。さらに高校生と子どもとの交流の機会を設けていく予定である。今後も、地域の行事に参加してほしい。書道パフォーマンスも素晴らしかった。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価) ・吹奏楽部の地域での発表、「発達と保育」の授業を通じての近隣保育園との連携、保護者・生徒が共通して参加するあいさつ運動、体験学習施設における地域の子どもたちと生徒のふれあいなど多くの場面で保護者や地域と生徒が交流する場面を作ることができた。 ・保護者を対象とした研修会では関心の高い子どものコミュニケーションというテーマを設定したことで、多くの保護者から好評であった。 ・学校説明会などで実際に生徒に動いてもらうことで生徒の活躍をアピールできた。またHPについても、校内手続の整備と新たなアプリケーションの導入によって、より一層詳しく、使いやすい情報発信が可能となった。</p> <p>(改善方策等) ・今後もより多くの部活動等が地域で活躍する機会を増やし、より一層の地域連携に努める。また生徒が自主的に活動できるように意識の向上をめざして教育活動に取り組む。 ・情報発信についてはHPはもとより、あらゆる機会・場面において学校のアピールを行う。</p>
--	--	---	--	--	---	---

<p><学校運営・学校管理></p> <p>(1) 職員の協力体制を作り、事故不祥事を防止する。</p> <p>(2) 安全で、安心な学習環境を作る。</p> <p>(3) 生徒の防災意識を高める。</p>	<p>(1) ①日常点検表などを利用し、業務を振り返る機会を作る。</p> <p>②参加体験型の職員研修を行う。</p> <p>(2) ①防災マニュアルの見直しとともに、要点がわかるダイジェスト版を作成する。</p> <p>②地域との連携を深め、非常時における本校の役割を明確にする。</p> <p>③平成 27 年度の体育館改修工事に向けた準備を進める。</p> <p>④校舎内の清掃の徹底、放課後の机上の整理、教室の掲示物などの管理を行う。</p> <p>(3) ①集団下校体制の整備を行う。</p> <p>②さまざまなケースを想定した、実践的な防災訓練を行う。</p>	<p>(1) ①学期ごとの数値が改善されているか。</p> <p>②職員の意識が向上したか。</p> <p>(2) ①わかりやすいマニュアルが作成できたか。</p> <p>②地域との連携が深められたか。</p> <p>③改修工事に向けた準備が進められたか。</p> <p>④快適な学習環境が作られたか。</p> <p>(3) ①集団下校体制の整備ができたか。</p> <p>②生徒の防災意識が高められたか。</p>	<p>(1) ①点検項目のうち、特に文書提出期限や時間に余裕を持った行動などで改善が見られた。</p> <p>②生徒理解のための研修でワークショップを実施したほか、ブラック企業についての研修を行い、生徒の人権を守る意識を高めた。</p> <p>(2) ①ダイジェスト版を作成し、重要ポイントの徹底に心がけた。</p> <p>②逗子市防災課と防災倉庫の管理や地域の避難訓練などについて打ち合わせを行った。</p> <p>③ワーキンググループを立ち上げ、授業及び部活動の代替施設の調整を行った。</p> <p>④机上の整理を呼びかけ、掃除の管理表を作成した。</p> <p>(3) ①アンケートをもとに集団下校体制のグループ分けを行い、11月の避難訓練で実施した。</p> <p>②選択授業が多くある時間帯に避難訓練を実施し、防災意識を高めた。</p>	<p>(1) ①今後も点検項目を見直しながら不祥事防止計画を徹底する。</p> <p>②人権意識が高まるテーマを選定し、事故防止研修のさらなる充実を図る。</p> <p>(2) ①職員への周知に工夫が必要である。</p> <p>②非常時の体制など、定期的な打ち合わせが必要である。</p> <p>③物品移動計画、教室等使用計画の詳細を作成する。</p> <p>④一人一人がゴミを分別できるようにし、学習に取り組む引き締まった環境づくりを進める。</p> <p>(3) ①課題を検討し、整備を継続する。</p> <p>②停電や交通遮断時などを想定したより実践的な内容を検討する。</p>	<p>(保護者) 保護者アンケートにおいて「安全で安心な学習環境が作られている」「交通安全、防災管理等の安全にかかわる指導に取り組んでいる」の項目においては、肯定的な評価を受けた。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故不祥事防止のための職員の協力体制づくりについて職員研修を行い、意識の向上が図れた。学期ごとに日常の業務について振り返りを行い、数値の改善が見られた。 ・安全で安心な学習環境づくりについては、防災マニュアルの見直しとダイジェスト版の作成によって、より分かりやすい防災への取組を行った。 ・集団下校体制の整備を避難訓練で行うことで生徒の防災意識を向上させた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故不祥事防止研修、人権研修については職員のニーズを把握し、内容を検討する。 ・机上の整理、教室の整備、ゴミの分別等には改善が必要な点がある。ルール作りを含めた校内体制づくりと職員の意識向上を行う。
---	---	---	--	--	--	---